

開催実績	
7月1日（水）午後7時～8時15分	曾木公民館（参加人数24名）
7月2日（木）午後7時～8時15分	ウエルフェア土岐（参加人数19名）
7月3日（金）午後7時～8時20分	肥田公民館（参加人数22名）
7月5日（日）午前10時30分～11時45分	文化プラザ（参加人数16名）
7月7日（火）午後7時～8時20分	セラトピア土岐（参加人数23名）
7月8日（水）午後7時～8時10分	駄知公民館（参加人数17名）
内容（各回共通）	
第1部 市長による第七次土岐市総合計画の目的や重点項目の説明と質疑応答 第2部 参加者どうしによる意見交換 ※総合計画の基本目標のテーマで2～3つのグループをつくり、市長、幹部職員も参加し、意見を伺いました。グループの進行は市職員が担当しました。	

第1部 質疑応答
※市長が第七次土岐市総合計画の目的や重点項目の説明をした後、質疑応答を行いました。 ※この報告書では、会場で回答できなかったご質問に対する回答のほか、参考情報を補足しています。
○施設の活用について Q1：曾木小学校の跡地をどうするのか。 A1：具体的な再利用について考えていきたい。 Q2：バーデンパーク SOGI の今後の活用方法は。 A2：大切な地域資源を有効活用できるよう、まずサウンディング調査（事業検討にあたり、民間事業者から直接意見やアイデアを聴取する調査）を行う。あわせて、検討期間となる2年間の指定管理期間中に、民間活用の可能性も含め、住民の皆さまのご意見を伺いながら考えていきたい。 Q3：総合病院の跡地をどうするのか。 A3：建物を取り壊すだけで30億円程度が見込まれる。解体するほか、建物を利用できる選択肢はないか、財政負担を軽減する方法がないか検討を重ねている。 ○教育について Q1：人口減少の問題が進む中、心配は学校教育。過疎になっていく地域の教育問題（学校の統合など）をどのように考えているのか。 A1：「第3次夢・絆プラン」に基づき、今後の学校のあり方について検討する委員会を立ち上げ、議論を進めている。今後は、市内全体の中で考えていく。具体的な方向性が見えてきた段階で改めてご説明し、ご意見を伺いたい。 Q2：子どもたちへの郷土愛（美濃焼文化）の教育が必要ではないか。

A2：子どもたちは、ふるさと教育として地域の方との交流を通じた取り組み、ふるさと魅力発見体験学習として施設や陶磁器工場でどのように美濃焼が作られているのかを学んでいる。

○第七次土岐市総合計画の策定について

Q1：第六次土岐市総合計画の振り返りの客観指標や主観指標に関して、どのような分析がなされたうえで、第七次土岐市総合計画が策定されているのか。

A1：市民意識調査による現状分析や課題抽出を行い、それをもとに市長の諮問機関である「土岐市総合計画審議会」での調査・審議を経て策定されている。第六次土岐市総合計画の効果検証や審議会での検討資料・議事録については、市のホームページに記載されているのでご確認いただきたい。

【資料 4】 第六次土岐市総合計画の実施状況および効果検証について（PDF 653.2KB）

URL： <https://www.city.toki.lg.jp/shisei/shisaku/1004914/1009222.html>

Q2：第七次土岐市総合計画のパブリックコメントは実施されるのか。

A2：計画を策定する際、パブリックコメントを実施した。今後のご意見については、毎年の市民意識調査で聴取する。

Q3：市民幸福度指標で近隣市との比較はどうか。

A3：資料の持ちあわせがないため、後日ホームページでお伝えする。

→市民幸福度（令和 6 年度、土岐市は個別調査、他は全国調査の結果）

土岐市 6.7

{	多治見市	6.7	瑞浪市	6.6	中津川市	6.2	可児市	6.7
	岐阜県	6.5	全国	6.5				

Q4：総合計画の具体的な実施状況はどのように報告されるのか。

A4：実施する事業は実施計画としてホームページで公表している。また、事業の評価についてもホームページで公表している。

Q5：市民意識調査で点数が高い人や低い人の年齢層を把握しているか。

A5：市民意識調査では幅広い世代に意見を伺っており、年代別などの分析を行い、ホームページで公表している。（市民意識調査の結果報告）

URL： <https://www.city.toki.lg.jp/shisei/shisaku/1004914/1003836.html>

○温暖化対策について

Q1：市としての取り組みが見えない。電気自動車やソーラーパネルの導入についてはどのように考えているのか。

A1：80 カ所程度の公共施設の照明を順次 LED 照明に変更していく。（公共施設の）ソーラーパネル設置などについて、現在のところ予定はないが、費用や効果を検討したうえで判断していきたい。

○タウンミーティングについて

Q1：今回出た意見は市の回答を含めて公開されるのか。

A1：各会場の質問・意見を取りまとめ、回答を含めてホームページで公表する。

Q2：タウンミーティングでの意見が計画に反映されたか見えるようになるのか。

A2：内容に応じて実施計画事業その他事業にご意見を反映させていただく。

○行政運営・情報発信について

Q1：にぎわいづくりについて、市はどのように関わるか。

A1：市制 70 周年では市民の皆さまが企画したイベントを支援した。この成果を将来につなげるため、今年度も同様に取り組んでいる。

Q2：移住定住について土岐市の魅力が伝わってこない。

A2：土岐市の暮らしやすさ、利便性や地域の魅力など、ホームページ、SNS、移住フェアなどで発信していく。

○新博物館について

Q1：新博物館の進捗状況はどうなっているか。

A1：建設に関する入札（令和 8 年 5 月 8 日執行）を行ったが、建設資材の高騰により不調となった。現在、適切な入札時期を検討している。

○東濃中部医療センターについて

Q1：東濃中部医療センターの会計に時間がかかるが、対策はあるか。

A1：（2 つの病院を統合し）システムを統合したことで時間がかかっていたが、改善されてきている。

○外国人との共生社会について

Q1：外国人との共生社会のルール作りが必要ではないか。

A1：市役所に専門相談員を配置し、外国の方が転入した際、日本での生活ルールを説明している。日本語が分からない方向けの日本語講座やコミュニケーションの取り方の出前講座も行っている。

○若者の出会いの場について

Q1：若者の出会いの場が少ないのではないか。

A1：昨年度から「出会いの場創出事業」に取り組んでいる。今年度も実施するので、皆さまも周りの方に声をかけていただきたい。

（婚活・結婚支援）URL：<https://www.city.toki.lg.jp/kurashi/shimin/1004744/index.html>

第2部 参加者どうしによる意見交換

参加者どうしによる意見交換は、総合計画の基本目標の6つテーマ（分野）に応じたグループで行いました。ご意見をテーマに分けてご紹介します。

※この報告書は、グループ（テーブル）におけるご意見をもとに、分類・整理しました。そのため、基本目標のテーマとご意見の内容が異なる場合があります。

※市の発言については、会場での発言に加え、説明を補足しているところがあります。

分野① 健康・福祉

○介護

- ・地域に介護施設がないためつくってほしい。

→【市】介護施設の設置は民間が主体のため、現状では市が新規の施設整備を進めることは難しい。

- ・親の介護をしており、仕事や買い物に気軽に行けない。
- ・空き家を介護施設などで活用できないか。
- ・介護で車いすや手助けが必要な人の移動手段が少ない。特に深夜帯。

○障がい

- ・障がい者が気軽に相談できるところがほしい。
- ・ケアマネ（障がい児の相談支援専門員）の相談が半年待ちとか。

○子育て

- ・産後ケアが素敵。新病院でも1割の負担で見てもらえる。
- ・出産にかかる費用を何らかの形で土岐市が全額補助できるとよい。
- ・雨の日に子どもが遊べる場所が少ない。
- ・名古屋から土岐市に移住した。自然の中で子育て、自然の中で生きる力を育てたかった。
- ・名古屋では一歩外に出ると騒音がするが、土岐市は静かであり、それが良さである。

○福祉

・地域福祉の横のつながりが弱い。子育て支援が大切なことは承知しているが、今困っている人に対しての重点的なものはないのか。

・異業種間の交流もない。1つのところで動いているだけで、横のつながりが弱い。多治見市はNPOの異業種間交流などが行われている。

- ・（市の）市民相談や法律相談を利用しても話がかみ合わず、自分で解決しないといけない。

○フレイル予防

・高齢化でフレイル体操などの参加者が減ってきた。施設に入所しなくても生活できるようになるとよい。

分野② 産業・観光・文化

○産業

- ・駅西の新しい道路に市内各地の陶芸家や小規模な陶磁器業者を集約したら、陶器市が一年中でき

る。また陶磁器以外のショップも出店してくると駅前が賑わってくる。

- ・陶磁器のコンクールで県外の人が入賞していることが多い。市内の陶芸作家の力が落ちているのか。

→【市】市内の作家の方も色々なコンクールで受賞されている。

- ・陶磁器会社で働いているが高齢化していて若手がいらない。自分より若いのは外国人だけ。
 - ・陶磁器のPRを名古屋駅やセントレアなど交通の要衝ですとよいと思う。
 - ・陶磁器業界が高齢化している。若手を呼び込むためにもっとPRが必要。
 - ・陶磁器産業も大事だが、他の産業の受け入れをもっと進めてほしい。
 - ・市には視野を広げて企業と協力して人を集める努力をしてほしい。
 - ・核融合はネガティブなイメージがあるが、次世代産業になり得る。核融合研究所をもっと活用できるとよい。青森県や茨城県那珂市では核融合で地域を盛り上げようとしている。
 - ・多治見市の「タジコン（創業支援・ビジネスコンテスト）」のような、個人の力を発揮・活用することをやってはどうか。
 - ・市外の方が訪れた時、「やきもののまち」といったイメージがないと言われる。常滑は焼物散歩道や招き猫などがある。駅を含めて「やきもののまち」のPRを積極的に行った方がよいと思う。
- 【市】市内にも「やきもののまち」について知らない方もいる。PR方法を検討する。

○観光

- ・アウトレットの客を市内に誘導できないか。
- ・曾木のもみじは人がたくさん来ていた。無くなったのはもったいない。地元の力では限界。行政の力でなんとかならないか。
- ・バーデンパーク SOGI 付近の農業振興地域をキャンプ場や道の駅にすると賑わうと思う。
- ・崇禅寺から妻木城までの道を整備してハイキングコースにしたらどうか。
- ・妻木城跡で雨が降ると倒木があり、道が通れなくなる。前回の台風の後倒木があり、その先を確認に行けていない。
- ・妻木城址の会が高齢化していて若手がいらない。
- ・三国山に観光客は来るのか。瑞浪市は屏風山に登る人など観光になるところがたくさんある気がする。PRが問題。
- ・市外から若い人を呼び込む陶芸イベントがないか。
- ・穴弘法と高山城跡をもっとPRしてほしい。
- ・土岐市は宿泊施設が少ない。
- ・駄知線は観光資源になっていた。線路の跡は残っている。活用できないか。
- ・セラテクノ付近を整備して娯楽施設を誘致できないか。
- ・どんぶり会館の案内看板が、駄知の旭ヶ丘南の交差点（左折するところ）にない。土地勘のない人は旭ヶ丘団地内に行ってしまう。
- ・どんぶり会館やセラテクノ土岐のロケーションが良い。もっと流行ると思う。セラテクノ土岐から御嶽山などが見える。レストランなどがあるとよいと思う。

・駄知は取り残されている。ロケーションや陶元浅野線の道路を生かして、どんぶり会館付近を一体として活用してほしい。

・新しい施設ができた時に、太鼓や武将隊を市で活用している。駄知にも「駄知歌舞伎」があるので、活動できるような場所と機会の提供ができればよいと思う。観光にもつなげてほしい。

→【市】市民の方も呼べる機会があるとより賑わう。土岐市に愛着を持っていただく、土岐市の資源の活用に取り組んでいきたいと考えている。

○交通

・元気な人が多く、自分で運転できている。近所の人や定期的に来る子どもに頼っているので交通に不自由していない。

・バスに乗っている人がいない。

・一人でバスに乗っても降りた先で介助が必要になるため利用しづらい。

・市民バスの利用者が少ない。もっと利用してもらえるとよい。

・デマンドタクシーは都会向け。田舎向けではない。

・将来、運転免許証を返納した時が不安。

・自動車がないと生活できない。免許返納後が心配。

・高齢者の免許返納後についての情報発信が弱い。

・肥田では民間のバスが走っていない状況。市民バスはあるが年寄りには乗り方が分からない。年寄りが多いので病院を経由する便数を増やしてほしい。

・駄知や肥田はバスを利用する人が少ないから、東鉄が撤退した。下肥田を通るバスがない。駄知どんぶりバス（の運行）を広げて活性化に繋がらないか。

・妻木からの下りのバスがない。車がなくても暮らせるコンパクトなまちだとよい。

・高校生などが、妻木から自家用車が無くても駅まで行ける仕組みがほしい。

・「のってこ」の妻木下石線の検討をしてほしい。

・免許返納を考えているが病院へ行っても帰りのバスがないので便数を増やしてほしい。

・車を運転しない人でも目的地に行ける仕組みがほしい。

・JRは多治見止まりが多く不便。

・リニアの開通や東海環状道の延長など、交通網が発達した10年以上先を見越したまちづくりをしてほしい。

○農林業

・地元以外の人で田畑をやりたい人がいる。市でなにか提案できないか。

○鳥獣被害

・シカやイノシシなどの動物が増えている。道路の草を最近刈ってもらっておらず、見通しが悪いと危ない。農作物の被害もある。市で対応してもらいたい。

○新博物館

・暮雪庵や花菖蒲茶会など素晴らしいのだが、地元の人知らないのがもったいない。

・計画中的新博物館が、大きなイベントがなくても人が集まり、穏やかな空間に包まれる、岐阜のメディアコスモスのような場所になったらよいと思う。

→【市】新博物館周辺のおりべの里公園で、花菖蒲茶会を行っている。ゆったりしており、景色も良く、新博物館と一体で活用できると考えている。文化に触れることに加え、皆さまが楽しめるような地域にしていきたいと考えている。

・観光客と地元の人を具体的にどのようにつなごうと考えているのか。

→【※市補足】新博物館が開館することで市外からの来訪者が増加し、講演会やワークショップ、イベントへの参加、体験により交流が生まれ、市民との繋がりが生まれることを期待している。

・計画の見直しが必要ではないか。世界情勢が悪化し、人口が減少している。子どもたちが負の遺産を払っていいのか。

・土岐市の文化遺産を活用していただける拠点が必要。

・新博物館について、議会報告会や市政報告会などで出た意見が、どのように反映されたか分からない。

・いろいろな意見を持った市民がいる。市から分かりやすい発信をしてほしい。

・見やすい展示方法を考えてほしい、展示物に昭和のメーカーの商品を並べたらどうか。

・新博物館が完成するまで、展示予定の作品をどんぶり会館やセラテクノで展示できないか。

○陶史の森

・きれいに整備されている。もっと利用されるように PR してほしい。

・良いところだが駐車場までの道が狭く使いづらい。道を整備すればもっと利用しやすくなる。

・マイナスな面はプラスにもなりうる。自然を楽しむ場としてデジタルデトックスとして取り組むのもよいのではないか。

・陶史の森は非常に良い場所だと思っている。しかし、それが世間に伝わっていないのではないか。PR が足りない。

・陶史の森の PR を積極的に行ってほしい。

③学習・スポーツ・市民活動

○学校・教育

・できれば濃南小学校を存続させてほしい。

・子どもたちの勉強する場所が少ない。

・市内の教育水準が低下しないことを願う。

・中学生の職場体験先に陶磁器メーカーがない。陶磁器に関して話を聞くだけでなく、体験を通じて陶磁器に興味を持ってほしい。

・部活動の地域クラブ化。やりたい子どもがスポーツをできない。体を動かす時間が学校の体育のみ。子どもたちの体力が心配。

→【市】子どもたちの体力は、運動の機会が減ることにより低下している（特に女子）。小さいころから運動に慣れ親しむことを目的に、大学の先生と ACP（アクティブ・チャイルド・プログラム）に取り組んでいる。部活動は、週に 3 回くらいだが実施している。小学校のスポーツ少年団が

らどうつなげていくかは課題と捉えている。

- ・指導者不足や1つの学校で1つのチームができないこともあり、学校の部活動が成り立たない。いくつかの学校が集まってできるように市が窓口となって力を入れていくべきではないか。

→【市】部活動を地域クラブ化し、受け皿をつくっているところ。人数が少ないクラブは、地域クラブの中でいくつかの学校が一緒になって取り組んでいけるように進めている。

○子ども

- ・子どもたちに郷土愛を持ってもらうために、土岐市検定やクイズを策定するなどをしたらどうか。検定合格したら粗品をプレゼントなど。

- ・地域の良さを子どもに知ってもらいたい。

- ・子どもたちがリターンで戻ってきてほしい。

○教師の処遇改善

- ・妻木小学校は「コミュニティ・スクール」など地域とのつながりがあると思うが、他の小学校ではあまり聞かない。先生方の負担もあると思うので、地域手当を支給するなどして先生方を増やしたり、研修を増やしたりなど、先生方の処遇改善について何かあれば知りたい。

→【市】「夢・絆プラン」を策定して教育を推進している。ふるさとと子どもたちを繋ぎ、ふるさとを大切にしたいという、愛着と誇りを持つ子を育てる取り組みをしている。妻木は先進的に行っているが、市内すべての学校でコミュニティ・スクールを行っている。ふるさと学習を大切に、地域に出て、地域の人と関わり、子どもたちをみんなで育てていくという気風を高めたいと取り組んでいる。地域手当は、地域ごとに金額が決められている。

○スポーツ

- ・活動センターは大会ができる場所ではないが、練習に使う人は多い。もっと活用できるとよい。

- ・（活動センターの活用に関連して）学生が利用できる合宿所にするともよいのでは。

- ・駄知公民館のトレーニング室は利用者数が多い。器具の更新をしてほしい。年間パスポートを導入してはどうか。

- ・総合公園の野球場は設備の都合で大会ができないため、中津川（の球場）に行く。

○地域のつながり

- ・スポーツ協会のなり手不足から、ここ10年で地域のつながりの希薄化を特に感じる。コロナがあつてさらに地域の方と交わらなくなった。

- ・（昔は町民運動会があったが）地域のイベントの参加者が減り、顔が見えない関係でお互いが知らない人である。本当に相手が信頼できる人なのか、どういった人なのか分からない。

- ・町民運動会を復活させたい。開催日時を固定したら集まりやすいのではないか。

- ・それぞれの分野でつながりを担保する方々がいるが、（横断的な）つながりが希薄化している。出雲市の『コミュニティナースカンパニー』のような、「つながりを作る人」の下でひとくくりになれば、人材も財源も確保されるのではないかと思う。つながりを担保するという点では、消防団も民生委員も共通、同じ目的だが、それぞれで活動しているため横のつながりも弱い。

○多文化共生

- ・外国人の移住では、文化の違いでトラブルが起きる。日本の文化を知ってもらうため、日本人と外国人の交流の場があるとよい。
- ・会社の外国人は、最初は文化の違いで挨拶をしないが、教えるとするようになる。働く中でコミュニケーションが取れて馴染んでくる。

④都市基盤

○基盤

- ・瀬戸や多治見のほか豊田方面へ行きやすいという地の利を生かしてほしい。
 - ・東濃5市では、中津川、恵那、瑞浪の面積が広いが、土岐市と多治見市はどちらが広いか。
- 【市】多治見市より土岐市の面積が広い。（土岐市：116.16 km²／多治見市：約91.25 km²）

○道路

- ・鶴里、曾木から土岐市街地方面へ、大型トラックが通れる道路がない。
- 【市】新病院につながる新しい道路（陶元浅野線）は、南北の軸として機能するが、曾木まで延ばすのは難しい。
- ・朝8時前後に新病院への道（陶元浅野線）が混雑する。
 - ・陶元浅野線の景色がきれい。道路に駐車している方も見かける。駐車できるスペースを作ったらどうか。
- 【市】新しくできた道と旧道の間に平地がある。保安林などもあり道路を拡幅することは難しいかもしれない。ロケーションが良い場所であり、検討はしている。市が何か行うのか、民間に活用してもらうかは今後考えていかなければならない。

○樹木管理

- ・道端の木の伐採が雑。切り方が悪い。
- ・自転車通勤している中学生が、木を避けながら通っている。下の方はみんなで刈っているが、上の方は難しい。市で対応できないか。
- ・旭ヶ丘からどんぶり会館までの道で枯れ木がある。倒木の危険があるので切してほしい。

○河川の整備

- ・川に草や砂が溜まり、雨が降ると洪水になるのではと心配。
 - ・オーバーフローの可能性があるので、川底にたまった土砂を取り除いてもらいたい。
 - ・町内で河川清掃をしているが、川上まで清掃ができない。
- 【市】町内から多数の要望がある。優先順位を付けて対応している。

○上下水道

- ・土岐市の上下水道の老朽化の状況はどうなっているか。
 - ・お金はかかるかもしれないが少しでも早く直してほしい。
- 【市】過去に塩化ビニル管で作られたものは壊れやすい。古いものから順番に改修している。

○駅周辺のまちづくり

- ・高齢者と子どもをつなぐ「寺子屋」のようなものを駅前に作ってはどうか。
- ・駅前など、ただ広だけで何も無い。緑もなく、にぎわいの場所がない。
- ・駅周辺の計画の情報発信（進捗状況の公開、駅周辺のコラムなど）
- ・駅前に更地が多い。商店が入らないなら住宅街にできるよう、補助金を出したらどうか。

→【市】市としても居場所や交流の場を整備する必要があると考えている。駅周辺まちづくり基本計画の中で取り組んでいきたい。

○公園

・地区にある2～3カ所の公園は、ボール遊びが禁止になっているため、子どもたちは道路で遊んでいる。せっかくの公園なのに活用できていない。安全性を考えると公園で遊んだ方がよいと思う。近所の人の意見で禁止になってしまっているのがもったいない。

→【※市補足】原則として、市が都市公園内でのボール遊びを禁止することはない。この事例は近隣の方々による地域ルールと思われるが、ボール遊びの内容によっては他の利用者に迷惑をかけることも考えられるため、公園の適正な利用の啓発に努める。

- ・子育てする側から見て公園が少ない。都市部は公園が選べる。子どもが遊べる場所が少ない。
- ・陶史の森以外にも大きな公園があるとよい。土岐市の駅を降りた時に全く緑がない。

○その他

- ・市内で住宅団地を増やすことはできないのか。

→【市】医療・福祉・商業施設などの都市機能と居住エリアを特定の地域に集約する「立地適正化計画」を進めている。

- ・今後、近隣市町村と合併することなどあるのか。

→【市】行政機能を広域化することは考えられる。

⑤環境・安全

○救急体制

- ・濃南にも24時間体制で救急車を配備してほしい。無理であれば近いところから来てほしい。

→【※市補足】24時間体制については、現在の人員体制と救急件数の割合から、現状が最も効率的であると判断している。近隣市との連携（消防の広域化）は、現在、県が主導し、検討が進められている。

○防災・危機管理

・火災時に消火栓が開きにくい、ホースが嵌め（はめ）にくいなどの問題があった。消火栓は数も多く、地域での管理が難しい。市で対応ができないか。

→【※市補足】地下式消火栓の蓋は、随時開閉しやすいタイプへ更新している。また、消防職員が年度内に全消火栓の点検を行い、不具合を発見した場合は修繕などの対応をしている。消火栓や器具の不具合を見つけたときは、管轄の消防署へご相談いただきたい。

- ・人口減少により消防団員の確保が困難である。

・災害が発生した時に、防災倉庫の鍵を持っている人が危機管理室の３人しかいない。町内ですぐ動けるような、区長や公民館長などに鍵を持たせてほしい。緊急時には市に頼ることができない状態なので、改善してほしい。

→【市】地域と確認の上、区長や施設管理者などが各防災倉庫の鍵を管理している。

- ・避難所が少ないので心配。収容できる人数が少なく、建物の中に人が入れない。
- ・町内の者はどこに逃げたらよいのか、日頃から周知するのが役目だが、コロナを機に希薄になっている。
- ・町内会に入っていないと助けてもらえないのか。
- ・基本的には自分の身は自分で守ると考えている。
- ・基本は自助・共助。地域で誰が誰を支援するか決めなければならない。
- ・各町内は、市から要支援者の名簿をもらっているが、助けが必要な人が、誰に助けられるか分かっていない。町内会の加入率が６割しかいない。表札もない。民生委員が電話をしても出ない。助けに行っても信用してもらえない。市としても、町内会活動の説明をしてほしい。加入率を高くしないと動けない。
- ・土岐市はどれくらい水道管の耐震化の工事が必要なのか知れば、備蓄や防災への意識が高まると思う。
- ・災害が起きた時にどうすればよいか分からない。実践的な訓練をしたい。
- ・駄知で以前は防災訓練をしていたが、コロナの時期からなくなってしまった。
- ・土岐市は地震に強いまちで売り込める。

○三国山

- ・三国山をどうしていくのか、地元で結論を出すのは荷が重い。市で早めの対応を考えてほしい。

○清掃活動

- ・６月の第１日曜に河川清掃を行ったが、草が伸びていてごみが見えない。他の時期に変えた方がよいのではないか。
- ・肥田は４月の第１週に農業用水の清掃している。間を空けた方が参加しやすい。立て続けにやると参加人数が減ってしまう。土岐市全体ではなく、その町内で都合の良い時期で実施したらよいのではないか。

○ごみ

- ・町内会に入っていない人が、ごみ出しのルールを守らない。
- ・ごみの集積場のネットは市の補助があるが、カゴは補助がない。囲いを造成する補助申請の手続きが煩雑。
- ・外国人へのごみ出しのルールなど教育が必要。
- ・ごみ出しに関して転入時に市から周知してほしい。外国人には就労先の企業が周知してほしい。
- ・ステーション方式になり、容器代や清掃などが必要である。町内会に入っていない人には使わせないと云わざるを得ない。労力と費用負担が問題になってくる。

- ・美濃加茂市では、町内会に入っていない人が使う公共管理の登録制で有料のごみ集積場をつくっている。町内会管理と公共管理のすみ分けをしている。
 - ・ごみ出しは市民任せになっている。公共の関与はどうなっているのか。集めるまでをどうするかが全く触れられていない。
 - ・環境センターからはどこにごみを出してもよいと聞いている。隣保班で占有するのは間違い。
- 【※市補足】
- ・ルールを守らずごみを出す方の情報提供があれば、環境センターから注意する。また、集積所に設置する注意喚起のチラシを配布している。
 - ・市へ転入される外国人の方には、「ごみ分別アプリ さんあ〜る」（6か国の外国語に対応）を紹介している。
 - ・美濃加茂市では、家庭ごみを「（ごみ処理施設）ささゆりクリーンパーク」へ持ち込むことはできないと聞いている。土岐市では、市民が環境センターへ直接ごみを持ち込めるため、公共管理のごみ集積所の設置は、現状では考えていない。
 - ・環境センターでは集積所に出されるごみは、違反ごみでない限り回収している。

⑥行財政運営・情報発信

○情報発信（市の魅力を伝える・作る）

- ・チラシや広報に載せるだけでは市民に伝わらない。今回のような場で発言してもらえるとよい。
- ・常滑も焼き物が盛んだが、ラッピングバスなど PR を頑張っている。土岐市でも PR を頑張してほしい。
- ・他県の学生に対して、実習で陶芸体験などを積極的に受け入れると、土岐市が陶芸のまちだと知ってもらえるきっかけになると思う。
- ・地域の特色を生かした教育体験の場をもっと用意できるとよい。
- ・名物や子どもを連れていきたいと思わせるような場所を作ることが、アウトレットに訪れた人を市内に引っ張ることにつながると思う。
- ・キャンピングカーで道の駅を利用することが多い。道の駅に RV パークがあると必ず停まる。例えば、どんぶり会館はろくろ体験ができるし、1日かけて土岐に滞在できるのではないかな。
- ・イベント情報を広報紙などの色々な媒体で発信しても、興味のある人しか参加しないと思う。昨年「（市民ワークショップ）のびた」に参加して、興味を持っている人が知り合いを誘うなど、周りに発信して広がっていくことが地味でもすごく大切だと感じた。興味を持った人が発信できる場をどんどん作っていくことが大切だと思う。
- ・情報の発信方法について勤め先の会社を通して周知してはどうか。
- ・年配の方にも分かるように紙媒体での広報。
- ・何らかのイベント時に、人から人へ手渡しするなど。
- ・広報紙の記事が目立つようにしてほしい。
- ・プロモーションが下手。産業や大河ドラマの時の妻木城跡など利用できるものが多い。泥臭くどんどん発信していけば、土岐はこういうまちなんだということが分かってもらえる。

・イベントや取組をやっていることも知られていない。知っている、知らないは根本的な問題。上手くやっている自治体の良いところを見習えば活気がでるのではないかな。

・SNSを活用して、単発の発信ではなく、継続した発信が重要だと思う。

・関心がない人へのプロモーションが重要。縦で頑張っている、横のつながりが希薄ではないか。商業施設は横のつながりを作る場所になり得る。行政は、仕組み上プロモーションが苦手だから、民間を活用して一緒にやっていけたらよいと思う。

・美濃焼についてまだまだ知られていない。何度も宣伝しないと忘れられてしまう。

・文化祭や合唱祭の観客が少ない。情報発信が足りていない。

・音楽の催しを下石の公民館で行ったとき、回覧板で回したら人が集まった。

○タウンミーティング

・このようなタウンミーティングを青年会議所などでやったらよいと思う。

・何を発言したらよいか分からない。

・いろんな問題がからんでいる。テーマが広すぎる。

・参加しても発言しにくい。

・若者に来てもらえるような時間に関心した方がよいと思う。

・参加者が少ない。土岐市の広報紙に掲載されていたが見にくい。記事を目立つようにしてほしい。土岐市は地味。

・タウンミーティングの周知は、広報紙では見られていないと思う。別のチラシを入れるなど検討した方がよいと思う。

・（市民に関心をもってもらうために）月に1回はタウンミーティングなどを行ってほしい。

・次回のタウンミーティングでは、事前に資料をもらいたい。

→【市】情報提供のあり方を見直し、取り組む。

○予算

・令和7年度と令和8年度の予算を比べると20億円ほど減っている。

→【市】大きな事業（新病院、陶元浅野線など）があると歳入歳出も大きくなる。

・歳入で寄附金が7億円とあるが、当初予算に寄附金の計上があるのは何か。

→【市】ふるさと納税分を見込んでいる。

○行政運営・公共施設管理

・窓口時間短縮で市役所に行けない人がいる。平日に市役所に行けない人はいつ行けばよいのか。休日窓口の開設などの対策を考えてほしい。市民のための市役所のはずが、行けない。

・市民課の待ち時間が長い。担当の分担を考えてほしい。

・総合病院に上がる道から見えるところにツタが伸びており見た目が悪い。整備できないのか。

・総合病院はどこが管理するのか。

・総合病院跡地を更地にして企業誘致したらどうか。活用しないともったいない。

→【※市補足】総合病院の跡地の活用については、現在のところ、具体的な利活用の方針は決まっ

ていないが、民間による利活用や公共的な用途としての利活用など、幅広い観点から検討を進めていく。

⑦その他

○町内会

- ・駄知町は町内会未加入者も増えている。特に外国人はほとんど加入していない。
- ・町内会に入っていない人は会費を払っていない。祭りを行う場合、町内会に入っている人は無料、加入していなければ有料と、区別をしたくはないが、区別せざるを得ない。
- ・地域の絆を作るための方策（祭などイベント）に費用がかかる。本来の自治会活動ではない遊びにお金をかけることに迷いがある。

→【市】町内会活動に対する補助制度があるので相談してほしい。

- ・市役所で町内会の必要性を案内してもらいたい。伝え方によって変わってくる。
- ・町内会は行政の末端の組織であることを説明してもらいたい。
- ・町内会に入る必要性がイメージできないのでは？

→【市】転入手続きの窓口で、町内会について説明をしている。

- ・共助のメリットが伝わるとよい。

→【市】町内会の周知方法については、引き続き検討が必要と考えている。

○人口減少

- ・子育てしやすい環境を整えれば、若者も集まるのではないか。
- ・長久手市など進んでいる自治体を参考にしてみよう。良いことはマネしてほしい。
- ・魅力的なものがあれば PR して人が集まるのではないか。
- ・この辺りは大きな地震もないし災害に強い。大きな魅力である。
- ・夏祭りで若者が一時的に遊びに来てくれるが、それを生かせていない。

○第六次土岐市総合計画

- ・第六次土岐市総合計画で出来なかった点はどこで確認できるか。

→【市】ホームページから確認できる。

（再掲）【資料 4】第六次土岐市総合計画の実施状況および効果検証について（PDF 653.2KB）

URL： <https://www.city.toki.lg.jp/shisei/shisaku/1004914/1009222.html>

○第七次土岐市総合計画

- ・「人を育み」というフレーズが心に響いた。子どもたちが自分に自信を持って育ってくれる取り組みをしてほしい。地域の大人たちも認めてあげる必要がある。

- ・人口が減っても税収が増えるような施策を考えたらどうか。
- ・若者が土岐市で就職して定住できるような企業誘致を進めてほしい。
- ・令和 2 年の調査結果から住みよさ指標が上がっている理由は何か。

→【市】例えば、平成 29 年の頃は、総合病院の合併の議論があり、医療に対する満足度が低かった。新病院が開院し改善してきている部分はある。

・主観指標や幸福度指標など一部の方に実施したアンケートや市民意識調査で、第七次総合計画の指針を決めてしまってよいのか。せめて、市民の半分以上の回答を得るなどできないのか。

・「市が存続する」ことよりも「住民が幸せに住み続けられる」ことを意識してほしい。人口4万人維持は目的にはならない。

・2045年に人口が4万人を切ってしまうので、2035年は46,000人目指すという点で、4万人を切ると何がいけないのか。

・幸福度7点は頼りない。ぜひ10点を目指してほしい。

→【市】人口が急に減ることで、社会が急激に変化してしまう。その変化に耐えられないことで、コミュニティなどが崩壊してしまう。これを避けるため、なるべく人口減少を緩やかにしていくことを考えたとき、現実的な目標として実際達成できるところを設定している。人口が減っていく中で、減った中でも幸せを感じていただける、土岐市に住み続けたいと思っていただけるところを今回目標として設定をしている。幸福度の7点というのは県下で一番。まずは、この10年間で岐阜県内一番を目指す。

○その他

・総合体育館がほしい。東濃5市で（土岐市だけ）ないから寂しい。

・図書館の運営が悪い。

・「公立東濃中部医療センター」名称が長い。愛称の募集をしてはどうか。